マリオ Seiji 発　ブラジル通信

O unico encontro na vida

～一期一会の思いを込めて～　　№9　2017.11.11

ボンジーア（Bom dia.）パラナヴァイ市立学校 19 校への訪問は２巡目に入っています。この間、全学級を訪問して日本語での挨拶や手遊び等、さまざまな活動をしましたので紹介していきます。なお、本通信№４～８で、児童作品交歓を通した教育活動連携校 12 校を重点的に紹介してきましたが、他７校の校長先生方からも前向きな言葉をいただいています。

全学級活動　❶ 手遊びをやろう！

言葉が通じなくても楽しめて、置き土産にもなる手遊びで子どもや先生方と交流しました。①１から 10 まで唱えながら順に指を曲げていく、②片手（閉）を胸に、片手（開）は前方へ交互に突き出す、③鏡文字を書くなど、難易度や取り組み方に変化をつけました。子どもたちと意気投合するには、多くの間は必要ありませんでした。右写真は活動②のスナップショットです。お気に入りの１枚として、デスクトップの背景を飾っています。PC を起動するたびに力をもらっています。

３年生 学級活動　❷ 絵本「ぼくの大切なもの家族」の読み聞かせ

多米小学校児童が作った詩に絵やポルトガル訳を加えた絵本（左写真）を、パラナヴァイ市教育局並びに多米小連携校であるダッシア校に寄贈しました。学級訪問１巡目、子どもたちに「あなたのいちばん大切なものは何ですか」と問うと、教室内のあちらこちらから「ファミーリア」という言葉が聞こえてきました。そこで、思案しましたが、ポルトガル語で読み聞かせをやってみようと決心しました。それ以後は練習あるのみ、時には翻訳ソフトを使ってホテルマンに絵本の音読を頼んだり、私の音読を評価してもらったりしています。その成果は、帰国後の報告会で披露させていただきます。

パラナ州教育局パラナヴァイ地区担当事務所 ペドロ所長を表敬訪問

豊橋市教育委員会とパラナヴァイ市との友好提携を締結する際にご尽力された方です。まず、本市とパラナ州教育局との連携状況を伝えました。次に、市立学校４年生で実践をしているマス計算の集計結果や意義を説明しところ、ペドロ氏は深くうなずき、今後州立学校６年生にもやらせてみよう、と述べられました。

■■ 小中学生のみなさん！　＜答えは№10 で＞

ブラジルの学校に関する出題です。

Q16　子どもたちはどういう方法で登校するのでしょうか。徒歩だけではありません。

Q17　校内で見かけました。これは何をするときに使うものでしょうか。

【ヒント】・下の写真は、答えの一部分です。
・みなさんも一年に１回以上経験します。

☆通信№８の答え

Q13…アイロン　Q14…コーヒー豆を挽く器械　Q15…トウモロコシの種をまく道具